

大平好調安定感

2位
13位



全日本サマーコンバインド朝日大会で63.0mの最長不倒をマーク



ノルディック複合

ノルディック複合競技、ソチオリンピック日本代表の本町出身、加藤大平選手(31)が北海道で開催されたサマースキー大会に出場した。

7月24日の土別市朝日町で開催の全日本サマーコンバインド大会では、前半9kmローラースキーで走力のある選手に一步も引けを取らないレース展開で3位につけ後半のジャンプへ。

得意とするジャンプでは63m(K点60m)の最長不倒をマークし2位に浮上。2本目のジャンプで優勝を狙うも着地にミスがあり2位となった。加藤選手は「走りは良かったし、ジャンプのタイミングも良かった。あとは着地が課題です。状態はともいなので、しっかり修正していきます。」と話していた。



先頭集団をキープする加藤選手



「わっさむ町」を腕に刻み、日本のトップ選手として活躍

7月26日には名寄市で開催のサマーオリンピック大会に出場し、葛西紀明選手や伊藤大貴選手などのジャンプメダリストの参戦する中、堂々の13位となった。

「ジャンプの状態は良く、飛んでいる感じはする。」と言うように、1本目90m、2本目89m(K点90m)とジャンプ選手に引けを取らない飛距離を見せたが、「着地に精彩を欠いた」と課題を残した。

富井コーチは「ジャンプ選手と大きな開きはなく状態はとも良い。」と太鼓判。

この遠征で抜群の安定感を見せた加藤選手は、8月〜9月は全日本の合宿や、サマーグランプリヨーロッパ大会遠征を行い、11月にはいよいよシーズンに入る。

加藤選手には、今シーズンも日本のトップ選手として、熱い期待がかかる。